

最新国外表面活性剂技术专利文集

上册

52025

最新国外表面活性剂技术专利文集

(上册)

北京顺百科技术情报研究所

最新国外表面活性剂技术专利文集

(下册)

抚顺市科技情报研究所

《最新国外表面活性剂技术专利文集》目录

上册

一、阴离子化合物

(一) 酸及其盐类

1、新型二羧基含氧酸酯	1页	3、清洗复配物	11页
2、美容清洁剂	7	4、液体洗涤剂复配物	15

(二) 磷酸或硫酸酯、其盐类

5、洗衣用洗涤剂	21	11、添加于油剂中的分散剂	57
6、洗涤剂复配物	30	12、以磷酸盐和烷基苯磺酸盐衍生物为 组分的杀菌洗涤剂	76
7、洗涤剂复配物	36	13、金属制品洗净剂及其使用方法	79
8、在强碱性水溶液中具有高渗透力的 渗透剂	41	14、洗衣用块状洗涤剂复配物	90
9、从印刷筛网上除去油墨的复配物	46	15、洗涤高级织物的液体洗涤剂	96
10、无结晶的柠檬酸洗涤剂组分	55		

(三) 含磷酸类的衍生物

16、浓缩均匀的液态洗涤剂	108
---------------	-----

(四) 全系阴离子化合物的混合物

17、改进溶解度的粒状洗涤剂复配物	114	19、清洁剂组成物	127
18、液体洗涤剂	112		

二、阳离子化合物

(一) 季铵化合物

20、除油漆的清洗剂	131	22、浓缩型织物柔软剂	151
21、以含有季铵盐的阳离子表面活性剂 为基质的浓缩型柔软剂	134		

(二) 其他含氮化合物

23、由沿阶草属和土麦冬属植物提取的 糖组成的皮肤保湿用化妆品	157	27、水溶性氮杂酞花青及其在漂白剂中作 为光敏剂的使用	195
24、具有增白作用的稳定的除臭香水	165	28、2-取代基-5-烷基-4-氯呋喃衍生物	216
25、含有有机二胺二酸盐的轻垢型洗涤剂	185	29、液体织物柔软剂	224
26、2、2、5-三甲基-5-苯基-1、 3-二恶烷	193	30、高溶解度过碳酸钠	236
		31、能使织物柔软的洗衣粉	241

(三) 杂环化合物

32、快速起泡的乳状洗涤剂	245
---------------	-----

(四) 硫或磷化合物

33、可稳定贮存的颗粒状洗涤剂	250	34、能自身降低粘度的医生用洗手剂	259
-----------------	-----	-------------------	-----

(五) 全系阳离子型化合物的混合物

35、纤维调整剂	263
(六) 阴离子型化合物与阳离子型化合物的混合物	
36、美发洗发剂	282
37、低泡沫洗涤剂	290

下册

三、非离子型化合物

(一) 聚氧(乙)烯基醚类	
38、耐贮的洗涤、漂白、杀菌剂	296
39、表面活性剂	304
40、兽毛、羽毛用处理剂	316
41、烷氧基链烷醇非离子表面活性剂	319
42、液态无水洗涤剂	331
43、手感光滑的聚氧烯基醚脂肪酸洗涤剂	335
44、无泡沫表面清洗剂	339
45、洗衣机用低泡沫洗涤剂	346
46、硬表面清洗剂	355
(二) 其他非离子型化合物	
55、新型氧化二烯化合物	412
56、脂肪酸酯的气、液态分散	415
57、聚甘油酯非离子表面活性剂	420
58、含羟胺氯化物处理剂	426
59、高油脂无水起泡剂	433
60、快速水合的三聚磷酸钠	439
61、单相液态水稳定洗涤剂	446
(三) 非离子化合物与离子型化合物的混合物	
68、含有二羧酸单酯的均匀浓缩的表面活性剂	489
69、稳定的液体洗涤剂	505
70、含有三元表面活性剂体系的均匀浓缩的表面活性剂	521
71、硬表面清洗剂	537
72、无水糊状清洗剂	551
73、液态织物柔软洗涤剂	558
74、液体洗涤剂	565
75、液体洗涤剂	571
76、含有阴离子型、聚氧乙烯基非离子型及酰胺型表面活性剂的液体洗涤剂	577
77、透明液体洗涤剂	584
四、两性电介质、电中性化合物	
78、洗衣洗涤剂	591
79、用于清洗剂复配物的表面活性剂	595
80、含氟羟基三甲铵乙内酯	601
81、具有高表面活性的氟代烷基硫酸三甲铵乙内酯	609
82、洗涤剂	617
83、过氟烷基、烷基硫酸季铵盐组成的表面活性剂	624

提供专利号题录

题 录

专利号

一、阴离子化合物

- 1、做为浮选促进剂用的新型单或二硫代酯 DE 3462752
- 2、液体洗涤剂复配物 EP 222557
- 3、高发泡水溶液洗涤剂 CA 1220694
- 4、高发泡水溶液洗涤剂 CA 1220695
- 5、清洗复配物 JP 61287991
- 6、洗涤剂复配物 EP 165056
- 7、模具制造用的清洗剂 JP 61291690
- 8、含有阴离子表面活性剂和单磺酸盐增白剂的稳定液体洗涤剂 EP 167205
- 9、硬表面清洗剂 SU 1209711
- 10、清洗金属表面的洗涤剂 SU 1273390
- 11、烷氨基化硫酸醚阴离子表面活性剂 EP 167337
- 12、降低水表面张力的复配物 EP 121184
- 13、对烷氨基苯(甲)酸酯 DE 3462656
- 14、“Deznor”消毒剂 SU 1189876
- 15、粒状洗涤剂 JP 6187798
- 16、粒状洗涤剂 JP 6109499
- 17、高级织物用洗涤剂 CA 1207210
- 18、服装洗涤剂 JP 6162599
- 19、液体洗涤剂 DE 2732178
- 20、液体洗涤剂 DE 3276005
- 21、洗涤剂复配物 DE 3610272
- 22、合成纤维洗涤剂 DE 3531128
- 23、二烷基碘基丁二酸液体洗涤剂 EP 208440

二、阳离子化合物

- 24、清洗特殊伤口用的酶 CA 1220740
- 25、清洗特殊伤口用的酶 CA 1220741
- 26、含可溶性硫代琥珀酯的漂白剂 CA 1220693
- 27、3--硫代过苯甲酸盐 EP 124968
- 28、织物处理剂 EP 199383
- 29、织物处理剂 EP 197578
- 30、液体清洗剂和柔软剂复配物 EP 203660
- 31、着色洗涤粉 EP 138410
- 32、新型1-氯基-4-苯乙烯基-3',4'三氯苯乙烯基苯化合物 DE 3462687
- 33、隐形镜清洗剂 US 3910296
- 34、液体纤维柔软剂 EP 199382
- 35、含酰胺增稠剂的洗涤剂 EP 176151
- 36、新型多元醇脂肪酸酰胺化合物 DE 3538451
- 37、胶封卤素漂白剂 JP 61254700
- 38、水洗过程含酞花青染料的漂白剂 JP 8714669

三、非离子型化合物

- 39、液体通用清洗剂 EP 244006
- 40、浓缩甘油醇以制备多羟基聚醚 DE 2647980
- 41、无水液体洗涤剂 BR 8605540
- 42、低泡沫洗涤剂 BR 8605829
- 43、能溶于冷水的非磷酸盐膏状洗涤剂 EP 234867
- 44、镍、铜及锌合金表面清洗剂 SU 1281590

45、新型苯乙基链烷醇聚乙二醇醚化合物	EP 233193
46、具有柔软功能的液体洗涤剂	DE 3702286
47、具有柔软功能的液体洗涤剂	DE 3702287
48、清洗传音物质的洗涤剂	EP 119336
49、隐形镜清洗水剂	JP 62501651
50、清洗餐具用固体碱性低泡沫清洗剂	DE 3018173
51、含烷氧基物的洗涤粉	DE 2526378
52、皮肤和手清洗消毒液	DE 3543918
53、自动洗涤器用液体漂白剂	DE 3276327
54、无水液体洗涤剂	EP 225654
55、家用洗衣机用固体洗涤剂	DE 3541147
56、用于胶乳聚合的非离子烷氧机表面活性剂	JP 87021570
57、美容予处理用泡沫水洗剂	US 4664835
58、可用水的21C二羧酸洗涤剂	DE 3638459
59、含柑桔油和H L B 溶液的花合物	WO 8702698
60、硬表面清洗剂	EP 213554
61、钢罐清洗剂	DE 3620314
62、含有氧化烯和缩水甘油醚的聚乙烯二醇	DE 3140160
63、降低水溶液表面张力的表面活性剂	DE 3533806
64、具有良好清除粘土功能的洗涤剂	GB 2180249
65、具有良好清除粘土功能的洗涤剂	GB 2133415
66、具有良好清除粘土功能的洗涤剂	GB 2175597
67、用于餐具自动清洗器的含活性氯洗涤剂	DE 3607673
68、稳定的单相液态洗涤剂	EP 237075
69、含水精制洗涤剂	DE 3704876
70、织物清洗柔软剂	DE 3704903
71、烷基昔和脂肪醇的分离	DE 3603581
72、硬表面清洗剂	JP 875980
73、三甘油脂、聚氢醇和氧化乙烯的缩合物	JP 8733358
74、强酸性表面活性剂	US 4683074
75、强酸性表面活性剂	EP 221142
76、烷基聚甙化合物洗涤剂	DE 3276373
77、高油无水起泡剂	BR 8604314
78、抗化学作用和抗热的含氟表面活性剂	JP 8772977
79、保护牙齿的清洁剂	CA 1220725
80、稳定的有机羟基烷氧化物	JP 6264898
81、清洗剂	EP 204472
82、清洗剂	JP 61283695
83、在低温下能流动的具有珍珠光彩的分散剂	DE 3560112
84、水溶性低粘度阴离子和非离子表面活性剂复配物	EP 207642
85、洗除金属表面碳沉积的药剂	SU 1244172
86、清洗酒瓶的“Boms-2号”洗涤剂	SU 1229223
87、厕所清洗剂	JP 86157591
88、洗手剂	SU 594165
89、在>60℃水中洗涤及柔软织物用的洗涤剂	DE 3530506
90、在含水洗涤介质中洗涤和柔软织物的液态洗涤剂	DE 3536258
91、含氯漂白可配伍洗涤剂	US 4594184

四、两性电介质、电中性化合物

92、高发泡皮肤清洗剂	EP 24031
93、液体洗涤剂	EP 181212

公開特許公報 (A) 昭62-70343

④Int.Cl.* C 07 C 69/675 B 01 F 17/38 17/42	識別記号 序内整理番号 6670-4H 8317-4G 8317-4G非審査請求 未請求 発明の数 4 (全6頁)	④公開 昭和62年(1987)3月31日
---	---	----------------------

⑤発明の名称 二つのカルボキシル基をもつオキシ酸から誘導される界面活性剤

⑥特願 昭61-172913

⑦出願 昭61(1986)7月24日

優先権主張 ⑧1985年7月26日イタリア(I.T.)⑨21734A/85

⑩発明者 ルイジ・トゥルキニ イタリア国ミラノ、ピア・アルキメデ、85

⑪既発明者 サルバトレ・ガルリシ イタリア国ベルチエルリ、ピア・アオスタ、32

⑫出願人 ラツフィネリア・オリ イタリア国ミラノ、フォロ・ブオナバルテ、31

イ・ルブリフィカンテ

イ・エルレ・オーニエ

ルレ・ソチエタ・ペ

ル・ツイオニ

⑬代理人 弁理士 倉内 基弘 外1名

最終頁に続く

右は翻訳文書(内容に変更なし)

明細書

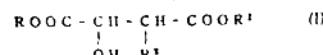
サン

①発明の名称 二つのカルボキシル基をもつオキシ酸から誘導される界面活性剤

(2) 式-A_n-R¹ 中 A がオキシアルキレン基 -CH₂-CH₂O- であり、 n が 4 ~ 10 の数であり、 R¹ が炭素原子 1 ~ 16 個を有するアルキルである、 特許請求の範囲第 1 項記載のエスチル。(3) R が -A_n-R¹ であり、 R¹ が亜鉛イオン、 アンモニウム又はアミン系であり、 R² が日又は -OH である、 特許請求の範囲第 1 項記載のエスチル。(4) R および R¹ が -A_nR² であり、 R² が日又は -OH である、 特許請求の範囲第 1 項記載のエスチル。

(5) 式(I)を有するエスチルの基-OH が、 常法に従いエスチル化又はエーテル化されている、 特許請求の範囲第 1 項記載のエスチル。

(6) 式

〔式中 R² は日又は -OH であり、R および R¹ は互いに向じか又は別異にして、 水素原子、 金属イオン、 アンモニウム基、 アンモニウムの有機塩基カチオン又は式(ここで A' は C₂ ~ C₄ オキシアルキレン基であり、 n' は 1 ~ 20 の数であり、 R³ は C₁ ~ C₁₂ アルキル基である)の基であるが、 但しこれら R および R¹ のうち少なくとも一つは -A_n-R³ 基である〕

の、 二つのカルボキシル基をもつオキシ酸のエス

〔式中 R² は日又は -OH であり、R および R¹ は互いに向じか又は別異にして、

水素原子、金属イオン、アンモニウム系、アンモニウムの有機塩基カチオン又は式



(ここで A[±] は C₁ ~ C₄ オキシアルキレン基であり、n は 1 ~ 20 の数であり、R[±] は C₁ ~ C₂₀ アルキル基である)

の基であるが、但しこれら R[±] 及び R[±] のうち少なくとも一つは -A[±]-R[±] 基である]

の、二つのカルボキシル基をもつオキシ酸のエステルを製造する方法であつて、前記後又はラムダ酸を、式



(ここで R[±]、A[±] および n は既述の意味を有する) のポリオキシアルキレン化脂防族アルコールにより 150 ~ 190℃ の温度でエステル化しながら反応水を除去精製し、得られたエステル化合物を脱水、金属塩基、アンモニウム又はアミンで成形させることよりなる方法。

(II) 式 (II) のアルコール中 A[±] がオキシエチレン基 -CH₂-CH₂OH[±] であり、n が 4 ~ 10 の数であ

る化合物が、生物分解性、無毒性、皮膚への吸収毒性、高い水溶性の如き種々の特性と共に、該化合物そして特に耐熱性のあるものとしましたそれ以外に、例えば、化粧 (Cosmetic) ないし美容関係、食品工業、繊維工業、スマルジョン薬品等のさまざまな分野で同じように利用しうるものとする目的された汎用性をも実現することはまれである。

然るに、本発明者は、これらの特性を重ね度々、それゆえ長い期間の研究に有効な、二つのカルボキシル基をもつオキシ酸から誘導された表面活性剤に、前記後又はラムダ酸よりエチオキシアルキレン化脂防族アルコールとのエステルおよび(又は)ジエステル並びにその、無機又は有機塩基との組よりなる界面活性剤を見出した。

従つて、本発明の目的は、一般式



[式中 R[±] は H 又は -OH であり、

R[±] および R[±] は互いに同じか又は異にし

り、R[±] が炭素原子 10 ~ 16 個を有するアルキルである、特許請求の範囲第 6 項記載の方法。]

(B) 塩基が、ナトリウム、カリウム、マグネシウム若しくはアンモニウムの水酸化物、ナトリウム若しくはカリウムの炭酸塩ないし重炭酸塩、トリエタノールアミンおよびモノエタノールアミンよりなる群から選ばれる、特許請求の範囲第 4 項記載の方法。

(D) 特許請求の範囲第 1 ~ 5 項のいずれか一項記載の式 (II) を有する着色剂若しくはリング状エスチル 1 種又は 2 種以上を含有する化粧ないし成形用樹脂。

(E) 特許請求の範囲第 1 ~ 5 項のいずれか一項記載の式 (III) を有するエスチルよりなる界面活性剤。

3 発明の詳細な説明

本発明は、二つのカルボキシル基をもつオキシ酸より誘導される無毒の生物分解性界面活性剤に関する。

知られている多種の界面活性剤において、單一

で、水素原子、金属イオン、アンモニウム系、アンモニウムの有機塩基カチオン又は式



(ここで A[±] は C₁ ~ C₄ オキシアルキレン基であり、n は 1 ~ 20 の数であり、R[±] は C₁ ~ C₂₀ アルキル基である)

の基であるが、但しこれら R[±] 及び R[±] のうち少なくとも一つは -A[±]-R[±] 基であり、しかも上記式 (II) を有する化合物の -OH 基は、常法によりエスチル化又はエーテル化されうる]

の、二つのカルボキシル基をもつオキシ酸のエスチルを提供することである。

金属イオンは好ましくは、ナトリウム、カリウムおよびマグネシウムより選ばれる。

アンモニウムの有機塩基のカチオンは、例えば、モノエタノールアミンおよびトリエタノールアミンの如きアルカノールアミンから生じうる。

基 R[±] は好ましくは、炭素原子 10 ~ 16 個を有する鎖状若しくは枝分れアルキル基から選ばれる。

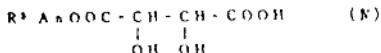
オキシアルキレン基Aは、好ましくはオキシエチレン基-CH₂-CH₂-O-であり、ヨは好ましくは4~10範囲である。

本発明の別の目的は、式(I)を有するエスチルの製造方法にして、前石鹼又はリンゴ酸を、式R²-A-OH (II)

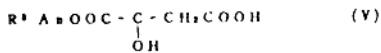
(ここでR²、Aおよびヨは既述の意味を有する)のポリオキシアルキレン化脂肪防錆アルコールにより150~190℃の加熱温度でエスチルしながら、反応水を絶えず留出せしめ、得られたエスチル化合物を回収、金属堆積、アンモニア又はアミンで塗形成させることよりなる方法を提供することである。

この方法により、モノないしジエスチルが取得され、これらエスチルは次々下記式を有する：

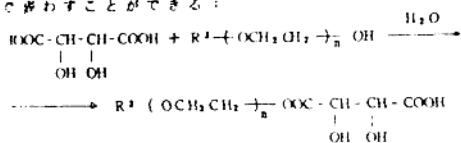
前石鹼のモノエスチル：



リンゴ酸のモノエスチル：



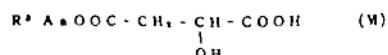
とのモノエスチルを製造する場合、反応は次式で表わすことができる：



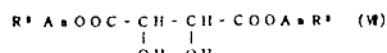
式(N)を有するポリオキシアルキレン化脂肪防錆アルコールは、市販されている既知化合物である。特にエトキシル化アルコールは、アルカリ塩として触媒とするアルコールと酸化エチレンとの反応により開製することもできる。

而して、ポリオキシアルキレン化アルコールのうち、式R²-C(OCH₂CH₂)_n-OH (ここでR²は1素原子10~16個の線状若しくは枝分れアルルであり、ヨは4~9である)を有するエトキシル化アルコールおよびその混合物が好ましい。本発明に從つたエスチル、特にエトキシル化脂肪アルコールのモノエスチル、その塩又はその化合物は、非常に少い割合で用いられるが表面張力を著しく低めることのできる非常に効率的な界面活性剤である。

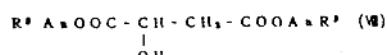
リンゴ酸のモノエスチル：



前石鹼のジエスチル：



リンゴ酸のジエスチル：



用いられる反応条件に従い、特に前記ポリオキシアルキレン化脂肪防錆アルコールとのモル比に依り、モノエスチル又はジエスチルのいずれかを選むままに製造することができる。

かくして、式(N)、(V)若しくは(W)を有するモノエスチルを選択的に製造するには前記ポリオキシアルキレン化脂肪防錆アルコールと主にモル比で反応させ、また式(X)若しくは(Y)を有するジエスチルを製造するには上記化合物を主に2のモル比で反応させる。

前石鹼とポリオキシエチレン化脂肪防錆アルコール

8

面活性剤であり、それゆえ既往化粧品、分野別および医療用として用いることができる。

すぐれた洗浄効果に加えて、本発明の界面活性剤は、皮膚若しくは目に對していかなる毒性作用も刺激作用もなく、経口ルートで摂取されても毒性がない。

それは、生物分解性において高く、90%を上回る。

また、100℃までの広い温度範囲で安定とわかつた。

更に、非常に良好な表面力又は界面力があり、中程度若しくはすぐれた水溶性を有しうる。

特に、その溶解性は、アルキルエーテル中に含まれるエチレンオキシドのモル数が増すにつれ高くなる。

本発明に從つたエスチルは、既知の界面活性剤の大部分と相容し得、而して一緒に処方しうることがわかつた。

本発明に從つたエスチルは、その特性全体のうちに界面活性剤の異なる使用分野で非常に廣泛性

のあることがわかつた。

それは、洗浄力の高いことと皮膚、毛髪、目にに対する毒性作用のないことにより、例えば、リキッドないしクリーム状の皮膚用洗剤、シャンプー、浴用フォームを製造する如き美容術分野で特に進している。

下記例は本発明を例示し、これをいかなる類様でも限定しない。

例 1

高石鹼のモノエスチル化

加熱系、搅拌機、温度計および反応体供給系を備え且つ反応水吸集用マニホールド付き冷却器に連通せる反応装置に、高石鹼 19.50% (1.3モル) と LIAL123[®]-ZETO (式 R³-OCH₂CH₂-OH (ここで R³ = C₁₁、C₁₂、C₁₃ アルキルおよびヨウ素) を有するエトキシル化アルコール (平均分子量 = 505) の混成物) 6.60% (1.307モル) を室温流れ下で導入した。

混合物を室温流れ下で搅拌し続ければ、反応水が蒸留はじめる温度 16.6 ~ 16.7℃ に約

11

NaOH 増化高石鹼モノエスチル 2.5 重量% を含む透明な水溶液 10.00% が得られた。

かくして得た溶液は、種々の洗浄用途でそのまま用いることができ、或いは予め稀釈したのち用いることもできる。

該液から水を除去することにより、鹼価 1.6、鹼化値 6.52、エステル値 6.36 および、1.0% の pH 4.8 の、主として高石鹼モノエスチルナトリウム塩よりなるクリーム状コンシスティンシーを有する生成物を得た。

この塩化物はどんな比でも水に溶けた。

該塩化物について下記の測定を行なつた：

表面張力

ジユヌーアイ法に従い 2.0℃ で測定した表面張力は、0.25% / 4 渡度で 34.0 ダイン/cm、1.9% / 4 渡度で 35.6 ダイン/cm であつた。

離脱力

蒸留水中 2% / 4 渡度の生成物について測定した離脱力は 4.5 秒であつた。

起泡力

13

90 分内で昇温させ、そのあと 17.3 ~ 17.4℃ にした。

エステル化反応水の理論値 (23.4%) の 5.0% を蒸留したとき、酸価を測定した。

酸価が 9.1 ~ 9.2 (理論値 8.8) になり、温度が 17.5 ~ 17.6℃ になつたとき (紙ね約 90 分間の反応後) エステル化反応が完了した。

しかるのち、反応混合物を 8.0℃ にまで冷却し、反応器の内容物を排出させた。含水量 0.1% 未満、酸価 8.93 および鈍化 13.00 の液状生成物 83.2% を得た。分析の結果、この生成物が主に、高石鹼のモノエスチルよりなるとわかつた。

堆形成

搅拌機、温度計、瓶下漏斗および水冷却器を備えた容器に、上記の如く調製した高石鹼エスチル 23.4% と脱イオン水 71.2% を導入した。

温度 2.0℃ の溶液が得られるまで全体をかき混ぜ、しかるのち、温度を 2.2℃ 以下の値に保ちながら搅拌下瓶下漏斗により 3.0% NaOH 溶液 54.0% を約 1 時間内で滴下に導入した。

12

ポアードデイスカ付の 5.0 ストロークプランジャー系を用い、生成物 2% / 4 渡度の水溶液 2.00 ml に滴し測定して次の処理の結果を得た。

下記時間 (min) 後	泡、m
0	8.00
5	7.80
10	7.40
15	6.40
20	5.20

また、本例の塩化物は生物分解性が高く、無毒無刺激性で、洗浄力が非常に高かつた。

例 2

リンゴ酸のモノエスチル化

加熱系、搅拌機、温度計および反応体供給系を備え且つ反応水吸集用マニホールド付き冷却器に連通せる反応装置に、リンゴ酸 17.6% (1.317モル) と LIAL123[®]-ZETO (式 R³-OCH₂CH₂-OH (ここで R³ = C₁₁、C₁₂、C₁₃ アルキルおよびヨウ素) を有するエトキシル化アルコール (平均分子量 = 505) の混成物) 6.60% (1.307モル) を室温流れ下で導入した。

14

4

1.6 R 4.9 (1.3 2.5 モル) を密閉瓶下で導入した。

混合物を密閉瓶下で攪拌し続けることにより、
・汎水が発酵はじめる温度 1.6.1 ~ 1.6.2 ℃ に
1.9.0 分内で昇温させ、その後、汎水 2.2.0
(増殖量 2.3.4.9) が発酵するまで 1.8.0 ℃ に
も次昇温させた。

8.0 ℃ にまで冷却したのち、反応器の内容物を
取出させた。

汎水質 0.1 % 糀糞、酸度 9.4.4 (球菌量 9.0.5)
および酸化価 1.8.2.5 の液状生成物 8.2.1.9 を得
て、分析の結果、この生成物が主にリンゴ酸のモ
ノエスチルよりなるとわかつた。

2 形成

操作図、温度計、筒下漏斗および水浴恒温器を備
た容器に、上記の如く調製したリンゴ酸 2.5.5.0
と酸イオン水 7.1.2.0 ℥ を導入した。

均質な溶液が得られるまで混合物をかき混ぜ、
ついで、温度を 2.4 ℃ 以下の値に保ちながら操作
筒下漏斗により 3.0 % NaOH 溶液 5.5.0 ℥ を約

1.5

1976年1月26日午後1時

6.0 分内で留置に注ぎ入れた。

Na 増殖リンゴ酸モノエスチル 2.5 増殖量を含
む透明な水溶液 1.0.0.0 ℥ が得られた。

かくして得た溶液は、操作の秩序用意でそのまま
用いてもよく、或いは予め冷蔵して用いてもよ
い。

留置から水を除去することにより、酸度 3.2、
酸化価 7.4.4、エスチル価 7.1.2 および、1.8 ℃
の pH 6.8 の、主としてリンゴ酸モノエスチルナ
トリウム塩よりなるクリース様コンクステンシー
を有する生成物を得た。

この増殖物はどんな生物も水に溶けた。

該増殖物について下記の検出を行なつた。

溶解力

留置水中 2.9 / 4 渡度の生成物に対する溶解力
は 1.0.6 秒であつた。

起剤力

ポアードディスク付きのカストローネブラン
ジャー系を用い、生成物 2.9 / 4 渡度の水溶液
2.0.0 ℥ に觸し測定して次の結果を得た。

1.5

下記時間 (min)	度 ℃
0	8.0.0
5	7.8.0
1.0	7.5.0
1.5	6.2.0
2.0	5.0.0

溶解能力

・カスター式恒温槽 1.9.0 ℃ で培養した増殖液
1.0.0.0 ℥ に濃度で 3.4.6 メイン / ml にて
1.0.0 ℥ に濃度で 3.4.1 メイン / ml であつた。

本菌の増殖物は生物分解性が非常に高く、酵素
活性性で、洗浄力も非常に高かつた。

代理人の氏名 食 内 系

同 風間 弘哉

17

--305--

5

第1頁の焼き

◎Int.Cl.* 識別記号 序内整理番号
 C 07 C 69/08 6670-4H
 C 11 D 1/74 7144-4H

発明明細書 アウレリオ・アルバニ イタリア国パビア、カステッジオ、ピア・ビガレルリ、37

二

手続用正書(方式)

補正の対象

昭和61年10月16日

特許審査官 黒田 明 管一段

事件表示 昭和61年特願第 172913号

断書の特許出願人の欄

明細書

要件状及びその誤文

各1通

発明の名称 二つのカルボキシル基をもつオキシ酸
カルボン酸である異形物質

補正をする者

事件表示欄

特許出願人

名 称 ラツフィネリア・オリイ・ルブリファカンティ・スル・
オー・スルレ・ソエタ・ペル・アンイオニ

補正の内容 別紙の通り

明細書の修正(内容に変更なし)

代理人

平井 103

住 所 東京都中央区日本橋3丁目13番11号 油脂工業会館
電話 273-6436番

氏 名 (6781) 有理士 食 内 基 弘 (主)

同

住 所 同 上

氏 名 (8577) 有理士 食 内 基 弘 (主)

補正命令通知の日付 昭和61年10月16日

補正を付す旨を記載する範囲の箇



⑪ 公開特許公報 (A) 昭61-21199

⑫ Int.Cl.

C 11 D 1/06
A 61 K 7/075
7/50

識別記号

府内整理番号

6660-4H

8115-4C

7133-4C

⑬ 公開 昭和61年(1986)1月29日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 化粧用洗浄剤

⑮ 特 願 昭59-142795

⑯ 出 願 昭59(1984)7月10日

⑰ 発明者 田端 勇仁 東京都板橋区蓮根3丁目24番3号 日本サーフアクタント工業株式会社内

⑰ 発明者 山田 三樹男 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目4番8号 日光ケミカルズ株式会社内

⑯ 出願人 日本サーフアクタント 工業株式会社 東京都板橋区蓮根3丁目24番3号

⑯ 出願人 日光ケミカルズ株式会社 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目4番8号

⑰ 代理人 弁理士 吉谷 啓

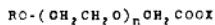
明細書

1. 発明の名称

化粧用洗浄剤

2. 特許請求の範囲

POEアルキルエーテルをカルボキシメチル化して得られる次の一般式で表わされるアルキルエーテルカルボン酸塩



(ただしRは炭素数8~18のアルキル基、nは1~5、Kはアンモニウム、アルカリ金属、アルカリ土類金属又はアルカノールアミン)で、Rが0のROOH₂COOKの含有量が5重量%以下、nが4以上のアルキルエーテルカルボン酸塩の含有量が5重量%以下、及び未反応のPOEアルキルエーテルの含有量が1.5重量%以下のものから実質上なることを特徴とする化粧用洗浄剤。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、酸化エチレン付加モル数が一定の範囲にあり、未反応のPOEアルキルエーテルを

一定量以下しか含有しない、高純度なアルキルエーテルカルボン酸塩を使用した化粧用洗浄剤に関するものである。本発明の化粧用洗浄剤は、安全性に優れ、中性もしくは弱酸性に優れている。

〔従来の技術〕

かつては、化粧用洗浄剤として樹脂セッケンが主として使われていたが、石けんは硬水で著しく泡立ち、洗浄性が落ちるため、アルキルスルホン酸塩、アルキル硫酸塩、アルキルエーテル硫酸塩などが使用されるようになつた。又、近年、安全性に重点が置かれるようになり、アミノ酸系界面活性剤、例えば、アシルグルタミン酸塩、アシルアラニン塩などが注目されるようになつた。

〔発明が解決しようとする問題点〕

併しながら、最近、化粧用洗浄剤に対する要求は従来より更に厳しくなつてゐる。つまり、皮膚や毛髪に近いpHであること、即ちpHが5~7であること、安全性の高いこと、長期保存安

定性のよいこと、生分解性の高いこと、洗浄後の感触がよいこと、及び当然のことながら独立して、洗浄性能がよいことなどである。たのような性能をすべて有する界面活性剤を見つけることは至難である。即ち、最も一般的なアルキル硫酸塩、アルキルスルホン酸塩などは安全性の点で難点があるし、使用感が悪く、これらの界面活性剤で手を洗うと、洗浄後メリ感が残り、サンパリとした使用感が得られない。安全性の高い界面活性剤であるアミノ酸系界面活性剤やアシル化ペプチドなども感触がよくない。又、古くから使われていたセッケンは、使用感はとてもよいが、中性から弱酸性で洗浄力、起泡力が著しく低下する。このように従来の界面活性剤には、現在化粧用洗浄剤に要求されている性能をすべて満足するものはない。

〔問題点を解決するための手段〕

そこで我々は、理想的な化粧用洗浄剤を開発すべく誠意努力を重ねた結果、高純度アルキルエーテルカルボン酸塩を化粧用洗浄剤として使

- 3 -

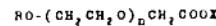
塩は、炭素数が 6 ~ 18 であり、酸化エチレン鎖は 1 ~ 3 モルであり、酸化エチレン鎖が 4 モル以上のもの及び酸化エチレン鎖を含まないものの含有量がともに 5 % 以下であり、カルボキシメチル化されていない未反応の POE アルキルエーテルが 15 % 以下である。

アルキル鎖が 8 より短いと皮膚刺激が認められ、起泡力が低下する。酸化エチレン鎖を含有することにより、弱酸性下でも洗浄性、起泡力が優れるが、4 モル以上の付加物は起泡性が悪くなり、あらい泡、安定性の泡を作り、使用感も悪くなる。又酸化エチレンが付加していないものは、溶解性が悪く、中性から弱酸性での起泡性、洗浄性が悪い。更に未反応物を多量に含有すると起泡性が著しく低下し、使用感も悪い。

本発明のアルキルエーテルカルボン酸塩は、高純度の POE アルキルエーテルを使用して作られる。即ち、通常の POE アルキルエーテルは、塩基性触媒下で高温で高級アルコールに酸化エチレンを付加重合して得られるが、このよう

- 5 -

用すると、非常に優れた性能を有することを見出しが、本発明を完成した。本発明者らは、既知のアルキルエーテルカルボン酸塩を分別、高純度化し、それぞれの分別物の性質を詳細に検討した結果、本発明のアルキルエーテルカルボン酸塩を見いたしたものである。即ち、本発明は POE アルキルエーテルをカルボキシメチル化して得られる次の一般式で表わされるアルキルエーテルカルボン酸塩



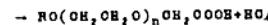
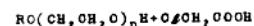
(ただし、R は炭素数 8 ~ 18 のアルキル基、n は 1 ~ 3、S はアンモニウム、アルカリ金属、アルカリ土類金属又はアルカノールアミン) で、n が 0 の $ROCH_2COOH$ の含有量が 5 重量% 以下、n が 4 以上のアルキルエーテルカルボン酸塩の含有量が 5 重量% 以下、及び未反応の POE アルキルエーテルの含有量が 15 重量% 以下のものから実質上なることを特徴とする化粧用洗浄剤に保つるものである。

本発明の高純度アルキルエーテルカルボン酸

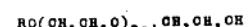
- 4 -

して得られた POE アルキルエーテルは、多くの未反応アルコールを含有し、広い酸化エチレンの重合度分布を有する。このため本発明で使用するに適した高純度 POE アルキルエーテルは、次のような方法で合成され得る。

- (1) 市販界面活性剤を蒸留分別する。
 - (2) アルキルハライドと高純度ポリエチレングリコールのアルコラートとを反応させる。
- 本発明のアルキルエーテルカルボン酸塩は、上記高純度ポリオキシエチレンアルキルエーテルを原料として次のような方法で得られる。
- (1) 次式による高純度 POE アルキルエーテルとモノクロロ酢酸との反応



- (2) 次式による金属触媒等を利用し酸化反応によって得られる



〔発明の効果〕

- 6 -

本発明の化粧用洗浄剤は、新陳性における起始力、洗浄力を優れ、洗浄後の感触が優れている。又安全性が高く、生分解性に優れている。本発明の化粧用洗浄剤は、セツケンに似たさばかりした感触をもち、皮膚のpHに近い弱酸性で優れた洗浄力を示すことが特長である。

本発明の化粧用洗浄剤は、洗顔クリーム、シャンプー、ボディシャンプー、化粧セツケンなどに最適である。本発明の化粧用洗浄剤は、通常の化粧用洗浄剤に配合される成分を配合して使用することができる。又、安全性の高いその他のアニオニン界面活性剤や内性界面活性剤を、本発明の洗浄剤の感触を損わぬ程度に添加してもよい。

(実施例)

次に本発明の化粧用洗浄剤として用いられるアルキルエーテルカルボン酸塩の合成例及び配合例を実施例として示すが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。

合成例 1

- 7 -

合成例 1 と同様の方法で高純度環化エチレン 1 モル付加体を得た。この時の組成は、

ヤシアルコール	7 %
環化エチレン 1 モル付加体	8.8
環化エチレン 2 モル付加体	5

であつた。この環化エチレン付加体にカルボキシメチル化を行い 8.5 % のカルボキシメチル化物を得た。未反応 POE アルキルエーテルは約 8 % 含まれていた。これをアンモニアにて中和し、目的物を得た。この時の ROCH_2COOK (X: アンモニウム) は約 5 % であつた。得られたヤシアルキルエーテルカルボン酸アンモニウム塩を ECOO-1A と記す。

配合例 1 (透明ゼリー状洗顔料)

ECOO-2Na	2.5 重量部
ポリエチレングリコールモノラウレート (環化エチレン付加モル数 1.0)	5
ソルビトール	3.0
クエン酸	0.1
防腐剤	適量

- 9 -

ヤシアルコール(又はステアリルアルコール) 1 モルに酸性触媒下で 2 モルの環化エチレンを付加した。これを蒸留し以下の様な組成の高純度環化エチレン付加体を得た。

環化エチレン 1 モル付加体	2.5 重量部
	2 *
	3 *

未反応 アルコール 5 *

この環化エチレン付加体にモノクロル酢酸によるカルボキシメチル化を行つた。この時の反応率は 9.0 % で、未反応 POE アルキルエーテルは約 1.0 % 含まれていた。次でアンモニア又は水酸化ナトリウムで中和し、目的物を得た。この時の ROCH_2COOK (X: アンモニウム又はナトリウム) は約 3 % であつた。

以下掲られたヤシアルキルエーテルカルボン酸アンモニウム塩を ECOO-2A、同じくナトリウム塩を ECOO-2Na、ステアリルエーテルカルボン酸ナトリウム塩を ECB-2Na と記す。

合成例 2

- 8 -

水にて 100 重量部

上記成分を混合して得られた配合物は pH 7.0、透明ゼリー状で、洗顔料として用いた場合つづり感がなく、さつぱりした使用後感を示した。

配合例 2 (透明石けん)

ECB-2Na	4.0 重量部
ECOO-1Na	2.5 *
クリセリン	1.0 *
ソルビトール	1.0 *
水クエン酸 pH 調整	1.0 *
エタノール	5 *

上記成分を加熱混ぜて透明溶液を得た。これは pH 7、耐候性大で、エタノールが少なくても作業性が良いものであつた。この溶液を常法により型に流し込み、乾燥して透明石けんを得た。

配合例 3 (シャンプー)

ECOO-2A	1.5 重量部
アミゾール CDE	5 *
クエン酸	0.1 *

- 10 -

水にて 100重量部

上記成分を混合してシャンプーを得た。これはpH中性、透明で目に対する刺激の少ないものであつた。

配合例4(ボデーシャンプー)

ECCO-1A 20重量部

ソルビトール 30重量部

水にて 100重量部

上記成分を混合してボデーシャンプーを得た。これはpH中性、透明な粘稠液体で、さっぱりとした使用感を示した。

出願人代理人　吉　谷　　謹

- 11 -